

国語科学習指導案

指導者 櫻田 仁美

- 1 日 時 平成24年6月19日(火) 第5校時
- 2 学 年 第2学年1組 21名 [2年1組教室]
- 3 単 元 名 1年生のために音読劇を開こう ～めざせ音読名人～
(学習材:「お手紙」 東京書籍 2年上)

4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。

- | |
|--|
| (1)ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 |
|--|

本単元では、1年生のために音読劇を開くという活動を通して、想像を広げながら読む力を身に付けさせるとともに、読み取った登場人物の気持ちが表れるように音読する力を身に付けさせることをねらう。

本教材「お手紙」は、①お手紙を待つがまくんとかえるくん②お手紙を書くかえるくん③お手紙を待つかえるくんと待つのをやめたがまくん④幸せな気持ちでお手紙を待つがまくんとかえるくん⑤お手紙を喜ぶがまくんの五つの場面で構成される。がまくんとかえるくんの会話を中心に物語が展開されており、その中に気持ちや人柄が表れる行動や会話が表現されている。そのため、場面ごとに想像を広げながら読み進めていきやすい教材である。こうした表現をとらえた上で、「音読劇を開こう」という言語活動を行う。

日常生活の中で、手紙を出したりもらったりする喜びや楽しみを多くの子どもたちが経験している。そのため、「手紙」を通して行われる心の交流について、登場人物の気持ちに共感しやすく、想像を広げながら読み進めていくことができると考える。

この題材を機に、日常の読書活動において、アーノルド・ローベルの他の作品にも触れるようにするとともに、いろいろな物語作品を読むことに広げていく。

- 本学級の児童は、4月の物語文教材「かくれんぼ」の学習において、はっきりとした声で、意味のまとまりを正しくとらえながら読む学習をした。何度も音読をさせていくとともに、役割読みを取り入れた。班ごとに好きな場面を選び、主人公のかおる役、動物役、ナレーター役などに分かれ、動作を入れたり、登場人物のせりふでは気持ちを込めたりして音読する活動を行った。その際、初めに教師が読み方の見本を示したり、「……」という表記のある箇所では、間をとることに気をつけさせたりしながら読ませていった。音読をすることが好きという児童は90% (19人/21人中) である。

音読劇は、児童にとって登場人物になりきって読むことができる活動であったため、全員が興味をもって学習に取り組むことができた。何度も音読をすることで、初めに比べ、はっきりすらすらと読むことができるようになったという児童は85% (18人/21人中) であった。

しかし、登場人物の行動を中心に想像を広げながら音読していくことは不十分であった。例えば、ぼったがもずから隠れるように主人公かおるのポケットにとびこむ場面で、敵に見つか

らないようにと急いだ様子や、ひっそりとした感じが伝わるような音読をすることがむずかしかった。それは、隠れるということがどういうことなのかを、児童にとらえさせるような場面の状況の把握が弱かったためである。また、これまでのモジュール学習にしても、音読といえは「お腹から声を出す」「はっきりと言う」ことを指導してきたためである。そのため、音読というと、どれも元気な声で言うところがある。

○ 指導にあたっては、次の4点において工夫していく。

第一に、1年生に音読劇をするというめあてをもたせる。がまくんとかえるくん、ナレーター（かたつむりくん）役に分かれ、3人グループで場面ごとに役割読みをする。役割読みをすることで、その登場人物になったような感覚で音読することができるとともに、その登場人物の気持ちに寄り添うことができる。また、1年生という相手意識をもたせることで、声の大きさや速さ、間の取り方や声の質などに気をつけて、一人で読むときよりも、相手に伝えようと意識して音読することができる考える。

第二に、よい音読のイメージをもたせるために、モデルビデオを用いる。図書委員会の児童の音読をモデルとしたビデオを見させ、表現の工夫で気付いた点を交流する。その際、声の大小、速さ、間の取り方、声の質などに着目させる。

第三に、教材文「お手紙」の学習を進めていく際に、本文を載せたワークシートに気づいたことや思ったことを書きこませる。その際、かえるくんとがまくんのせりふをそれぞれ色分けすることで、視覚的にも分かりやすくする。そして、「かなしい」「ふしあわせ」「しあわせ」といった気持ちを表す表現や、「大きいぞいで」「とび出しました」といった動作を表す表現、「まどからのぞきました」の繰り返しの表現などに着目させる。そうすることで、登場人物の気持ちに寄り添わせる。そのことが、音読の工夫へとつながる。

第四に、毎時間の授業の終わりにおいて、登場人物のなりきり日記を書かせる。その際、かえるくんになりきる児童と、がまくんになりきる児童とに分ける。初めから役割を固定して読み取りを進めることで、その人物の気持ちを踏まえて音読することができる考える。

5 研究主題との関わり

(1) 扱う言語活動例

物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 （「読むこと」言語活動例イ）

(2) 言語活動を充実させるための指導方法の工夫

場面ごとに人物のしたことや気持ちに気を付けて、物語を読むことができるようにするために、本文を載せたワークシートに気づいたことや思ったことを書きこませたり、登場人物のなりきり日記を書かせたりする。

6 単元の目標

○ 人物の行動や会話に関心を持ち、楽しんで物語を読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

○ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて物語を音読することができる。【読むこと ア】

◎ 場面について知り、登場人物の行動を中心に出来事の順序に沿って、想像を広げながら読むことができる。【読むこと ウ】

7 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力
単元の評価規準	○人物の行動や会話に関心を持ち，楽しんで物語を読もうとしている。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて物語を音読している。 ◎場面について知り，登場人物の行動を中心に出来事の順序に沿って，想像を広げながら読んでいる。
の学習評価活動規準における具体	○登場人物になりきって，楽しんで音読しようとしている。 ○アーノルド・ローベルの他の作品を読んだり，いろいろな物語作品を進んで読もうとしたりしている。	○語のまとまり，声の大小や速さ，間の取り方や声の質に気を付けて音読している。 ◎登場人物の行動を中心に出来事の事柄の順序に沿って，心情の変化をとらえている。

8 指導計画（全10時間）

次	学 習 活 動	評 価			
		関	読	評価規準	評価方法
一	音読劇をすることを知らせ，見通しをもたせる。 (1)	○		○ 登場人物になりきって，楽しんで音読しようとしている。	行動観察 ワークシート
二	がまくんとかえるくんの気持ちを想像しながら「お手紙」を読む。 (7，本時5／7)		◎	◎ 登場人物の行動を中心に出来事の事柄の順序に沿って，心情の変化をとらえている。	行動観察 ワークシート
三	音読劇の練習をする。 (1) 音読劇の発表をする。 (1)	○	◎	◎ 語のまとまり，声の大小や速さ，間の取り方や声の質に気を付けて音読している。 ○ アーノルド・ローベルの他の作品を読んだり，いろいろな物語作品を進んで読もうとしたりしている。	行動観察

9 本時の展開

(1) 本時の目標

お手紙の内容を知り，幸せな気持ちに変わる二人の様子や気持ちをとらえることができる。

(2) 観点別評価規準

- 登場人物の行動を中心に出来事の事柄の順序に沿って，心情の変化をとらえている。

[読む能力]

(3) 本時のポイント

本文を載せたワークシートに，気づいたことや思ったことを書き込んだり，登場人物になりきった日記を書いたりしながら，登場人物になりきって音読できるようにする。

(4) 準備物

ワークシート, 本文掲示, 音読のポイントを書いた掲示, がまくんとかえるくんのお面

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 前時までの学習を想起する。 2 本時のめあてを知る。	○これまで学習してきた場面の状況設定(だれが, 何をした)を確認する。 ○前時までの学習を想起しやすくするために, 学習の足跡となる教材本文や音読のポイント(①声の大きさ②スピード③間④気持ちを込めて)を掲示しておく。 せりふや行動から, 気持ちを考えて音読げきをしよう。	
3 かえるくんがお手紙の内容を話すまでの二人の様子や気持ちを考えて音読する。 4 お手紙の内容を知り, 幸せな気持ちに変わった二人の様子や気持ちをとらえて音読する。	○声の大小, 速さ, 間の取り方, 声の質を観点とした音読の工夫の仕方について, 本文を載せたワークシートに, 事前に書き込みをさせておく。 ○かえるくんとがまくんのせりふの色分けを事前に行っておく。 ○四場面の本文を掲示し, 工夫する点を書き込んでいく。 ○かえるくんの発言が, 3場面の「~かもしれない」から, 「きっと」に変わっていることに着目させる。 ○ペアで交流後, 全体で発表させる。 ○がまくんとかえるくんのお面を用いて音読させることで, その人物になりきらせる。 ○全体の場で登場人物になりきって音読をさせた際, 「今どんな気持ちか」「それはなぜか」と問うことで, 本文の内容を根拠に考えられるようにする。 ○本来のお手紙の内容を変えたものとして, 「こんどいっしょにあそぼうね」といったものや, 「親愛なる」を書かずに「親友」のところを「友達」とした内容とも比較させる。そうすることで, かえるくんのお手紙が伝えるがまくんへの気持ちの強さに気づかせる。そして, 「親愛なる」「親友」を丸で囲み, 手紙の内容の価値に気づかせる。 ○1場面ときの「ああ。」と4場面での「ああ。」の違いにも触れさせる。 ○がまくんのせりふ「とてもいいお手紙だ。」では, 何が「いい」のかを考えさせる。	○登場人物の行動を中心に出来事の事柄の順序に沿って, 心情の変化をとらえている。(ワークシート)

<p>5 音読を他のペアと交流する。</p>	<p>○最後の一文にある「しあわせ」という言葉に線を引かせ、気持ちの変化をとらえさせる。</p> <p>○ペアで交流後、全体で発表させる。</p> <p>○学習した内容を振り返らせるために、4場面を通して音読させる。</p> <p>○音読を班で行い、ペアの互いの表現の違いに気付かせ、よいと思ったところやアドバイスなどを交流する。</p>	
<p>6 なりきり日記を書く。</p>	<p>○がまくん役とかえるくん役に分かれ、吹き出しに気持ちを書かせる。</p>	